

大会を終えて

～第 58 回全国社会人サッカー選手権大会～
@鹿児島県志布志市

2022 年 10 月 14 日～10 月 17 日 (派遣期間)

中国 2 級審判員

大藤 翔平
大戸 魁
加藤 元紫
田口 新

大会が始まる前に・・・

今大会が始まる前に3回の事前研修会（Zoomを使用）が行われました。

第1回（10月4日）

- ◆大会テーマ「プロアクティブなレフェリング」の確認。
 - ・大会が始まるまでにできる事。（チームの情報を入れておく）
 - ・試合が始まったら状況に応じたレフェリーとしての対応が必要
- ◆大会要項の確認
 - ・レギュレーションの確認、日程等の認識合わせ
- ◆オフサイドの新解釈の確認
 - ・映像を使った講義が行われました。

第2回（10月11日）

- ◆プロアクティブとは？
 - ・積極的に先取りした肯定的な行動。
 - ・審判員として絶対に対応しなければならない状態になる前に予防したい。
- 以上を前提として、映像を見てディスカッションを行いました。

大藤 翔平 活動報告

	大会 1 日目	大会 2 日目	大会 3 日目
役割	A1	主審	主審
対戦カード	プリオベッカ浦安 vs ジェイリース FC	サンクくりやま vs コバルトーレ女川	FC 延岡 AGATA vs 関大 FC2008
インストラクター	村上孝治さん	名木利幸さん	上川徹さん
振り返り内容	A	B	C

A

- ・アシスタントについては特に指摘はありませんでした。

B

- ・前半はサッカーではなく喧嘩だった。フットボールに集中させる時間が必要。
- ・選手からプレッシャーをかけられるのではなくこちらからかける。
- ・選手と駆け引きする。
- ・マネジメントには限界がある。出すべきところではカードを出すべき。それが退場だとしても。
- ・選手と話しているときに顔かない。謝っているように見えるので。（首、目線を動かさないようにした方が強さは出る。）

C

- ・動き出し、スプリントは良い。自分のストロングポイント。
 - ・ホールディングの反則はもうワンテンポ早めに吹く。（耐えていても不満は溜まるから。）
- 試合を3つの時間帯に分けて、立ち上がりや真ん中の時間帯では早めに吹く。（ゴールに向かっているゴール前で状況であれば話は別。）そうすれば試合の温度が上がっていく方向にゲームが進んでいかない。



まとめ

この度は全国社会人サッカー選手権大会への参加を推薦頂きありがとうございました。私自身はこの大会には初めての参加となりました。参加チームは全国地域チャンピオンズリーグへの出場権という高いモチベーションをもって試合に臨みます。事前の研修から確認していた通り、マネジメントの必要なシーンが多く発生しました。上手くいった場面、上手くいかなかった場面がありますが、もう一度自分で整理して選手への伝え方、表情、タイミング、周囲から見た印象を考えながら日々の審判活動に取り組みたいと思います。

今シーズンも残りわずかとなりました。これから先、昇降格のかかった厳しい試合が増えてくると思います。毎週末の試合に向けていい準備を行い無事シーズンを締めくくりたいと思います。

今後ともよろしくお願い致します。

大戸 魁 活動報告

〈大会1日目〉

(R) A.S.Lalanja Kyoto vs 福井ユナイテッド F.C

アセッサー 上川 徹 氏

振り返り

●負傷者への対応

- ・ドクターを入れるのか。入れないのか。
選手の状態や勝ち負け、時間帯を考慮して考える。
- ・危険なファールと重篤な負傷の考え方。
重篤なものはピッチの中での治療が認められる。
もう一度重篤な負傷とはどんなのか考える。

●動きとポジショニング

- ・背中でプレーを切りすぎない。
先にいかせて広い視野で監視するときと先に抜けるときのメリットデメリットを考え、状況がどうなのかを見て選択する。
- ・どんなプレーの攻防が起こりそうか予測した動き出し。

〈大会2日目〉

(AR) BTOP サンクくりやま vs コバルトレ女川

アセッサー 名木 利幸 氏

振り返り

何もありませんでした。

〈大会3日目〉

(4th) FU 延岡 AGATA vs 関大 FC2008

アセッサー 上川 徹 氏

振り返り

●退場者の管理

- 一度テントに戻った退場者がまたベンチ付近に戻ってきたのを自分が持ち場を離れて対応した。
4th は持ち場を離れない。その間に交代が来る可能性があるため。運営かベンチに言って退場者を戻してもらおう。
- 立ち姿を美しくする。Rが見て安心できる立ち振る舞いを心掛ける。

まとめ

この度は追加ではありましたが全国社会人サッカー選手権大会に推薦いただきありがとうございました。初めての社会人大会への参加でした。地域チャンピオンズリーグへの出場権がかかった大会というのは分かっていましたが選手の熱はそれ以上のものでした。一番収穫になったのは、マネジメントの部分でいかに選手にレフェリーの気持ちを伝えられるかです。その伝え方の引き出しをアセッサーの方々にアドバイスいただきました。その中で今までと変わりなく自分が出来たこと、出来なかったこと、出来たけどうまくいかなかった所を

整理して今後の試合に活かしていきたいと思いました。

シーズンも残りわずかとなりましたが、最後まで気を抜くことなくトレーニングを積んで試合に挑みたいと思います。その中で自分が教えていただいたことを地域に還元し、少しでも地域のレベルアップに繋がれば幸いです。今後ともよろしく願いいたします

加藤 元紫 活動報告

	大会 1 日目	大会 2 日目
任務	R	A2
対戦カード	FC 延岡 AGATA vs chukyo univ.FC	ヴェロスクロノス都農 vs 南葛 SC
INS	酒井 昭宏さん	上川 徹さん
振り返り	A	B

A : FC 延岡 AGATA vs chukyo univ.FC

- ・判定の幅（グレーゾーン）が広い

⇒選手がバランスを崩さず耐えているから、ファウルとしないのではなく、
行為を行っている競技者の意図を汲みなさい

- ・判定を下す際はいい位置にはいるが、もっとチームがどう攻めたいのか？

いつどのポジションに入るのか考えながら動くスムーズに動け、より良い
動きになる（先取りポジションは悪くはないが邪魔になっているときもあった）

B : ヴェロスクロノス都農 vs 南葛 SC

- ・正しくオフサイドも見極めており特に問題はないとのこと
- ・得点が入った際の監視の役割分担を気にしたほうが良いとのこと

⇒得点の喜びの輪に主審が近づいていくのであれば、ボール周辺の監視は
4thが行うのか、副審が行うのか



まとめ

この度は全国社会人サッカー選手権大会への参加を推薦頂きありがとうございました。

初めて社会人カテゴリーでの全国大会参加となり、また参加チームの大半は全国地域チャンピオンズリーグへの出場権をかけた熱い試合でとても緊張感のある2日間でした。

今回の審判員の大会テーマである『プロアクティブなレフェリング』では

火種になりそうなものに関しては、早期に気づき手を打つ（マネジメントする）ことの大切さを実際に肌で感じることができました。

今回の経験を残りのシーズン、また来シーズンに向けてしっかり整理し直すと同時に、

今回研修に派遣されていない審判員にもしっかりと伝達を行い、CGFA 審判員全体でさらなるレベルアップができたと思います。今後ともご指導の程よろしく願いいたします。

田口 新 活動報告

【割当】

- 1 日目 アルテリーヴォ和歌山 vs エリース東京 (主審) Ins : 中岡 誠 氏
2 日目 VONDS 市原 vs FC 延岡 AGATA (副審) Ins : 山本弘之 氏
3 日目 おこしやす京都 AC vs ヴェロスクロノス都農 (4th) Ins : 泉 弘紀 氏

【振り返り】

(主審)

○「真面目なレフェリー」という印象。終始再開位置など主導権を握ってコントロールしていた。ひとつひとつを丁寧に進めて行こうという気持ちを感じた。

●マネジメントの声掛けの質。同じ言葉を発していてもトーンやテンションが一緒だと伝わりにくい。

(響かない)

表情や話し方に工夫を。自分の身長を生かした選手との距離感で説得力のある「絵」作り

(副審)

特に指摘されるようなことは無かったが、主審の方より、AR サイドでのファウルは(主審がファウルを採用していたが)もっとフラッグアップしてよいとの助言を頂いた。

(4th)

○ボードが2枚しかない中、3人同時交代の際にはボードの両面を活用するなど臨機応変に対応できた。

●異議や不満への対応。その発言がサッカーから逸脱していないか。ボーダーラインは?

何に対してベンチがどうアクションを起こしているか幅広くアンテナを張ること。

【まとめ】

この度は全国社会人サッカー選手権大会への参加の推薦を頂きありがとうございました。私は前回参加させていただいた大会を体調不良により途中離脱し、色々な方にご迷惑をおかけしました。まずは健康に派遣期間を全うできたことに安堵しています。全国地域チャンピオンズリーグへの出場権をかけた緊迫した大会を経験させていただき、チームの試合に対して賭ける想いや選手の温度感など独特の空気感を直で感じ、とても引き締まる思いで臨んだ大会でした。

マネジメント能力について再考させられる大会となりました。自分の言葉の引き出しの数、伝え方見せ方など今までやってきたことが「やった感」になっていたなと感じました。今回感じたこと、修正することをひとつずつクリアにしていけるように中国に戻っても日々意識高く試合に臨みたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

